小5理科 もののとけ方

名前

問1　水の温度を高くしても、水にとける量がほとんど変化しない物質はどれですか。

1. 砂糖
2. ホウ酸
3. ミョウバン
4. 食塩

問2　ものが水にとけた液のことを何といいますか。

1. 水よう液
2. 水てき
3. 水じょう気
4. 水そう

問3　水を蒸発させることで固体として取り出す方法は、溶けているもののどのような性質に適していますか。

1. 温度が変わっても溶ける量がほとんど変わらない性質
2. 温度が上がると溶ける量が急に増える性質
3. 温度が下がると溶ける量が急に減る性質
4. 水にまったく溶けない性質

問4　メスシリンダーで液体の体積をはかるとき、メスシリンダーはどのような場所に置いて使わなければなりませんか。

1. 高いところ
2. 水平なところ
3. かたむいたところ
4. 日当たりの良いところ

問5　水溶液を熱して水をじょう発させるときに、水溶液を入れるために使う皿の名前は何ですか。

1. ビーカー
2. 薬さじ
3. ペトリ皿
4. じょう発皿

問6　メスシリンダーを水平なところに置いて使うのは、何をするためですか。

1. 液体の温度を一定にするため
2. 液体の体積を正しくはかるため
3. 液体をきれいにろ過するため
4. 液体を早く蒸発させるため

問7　ものの重さをはかるために使う道具で、使う前に何も載せていないときの表示を「0g」にするものはどれですか。

1. じょうご
2. 電子てんびん
3. 温度計
4. メスシリンダー

問8　水溶液を冷やすことで固体として取り出すことができるのは、どのような性質がある物質ですか。

1. 温度が下がると溶ける量が大きく増える性質
2. 温度が変わっても溶ける量がまったく変わらない性質
3. 温度が下がると溶ける量が大きく減る性質
4. 温度が上がると溶ける量が大きく減る性質

問9　右利きの人が上皿てんびんを使って重さをはかるとき、左側の皿にのせるものはどれですか。

1. 一番軽い分銅
2. はかるもの
3. 一番重い分銅
4. 薬さじ

問10　ろ紙をろうとにはめて使うとき、ろうとにぴったりとはりつかせるためにはどうしますか。

1. 乾いたまま強くおしつける。
2. 火であぶる。
3. 水でぬらす。
4. のりをつける。

問11　水に食塩を限界までとかしたあと、さらに食塩をとかすためには、どのような方法をとればよいですか。

1. 食塩を細かくくだく
2. 水の量を減らす
3. 水の量を増やす
4. 水をよくかき混ぜ続ける

問12　食塩やミョウバンなどを水にとかしていくとき、一定の量の水にとけるものの量にはどのようなきまりがありますか。

1. とける量には限界（かぎり）がある。
2. ものを細かくくだけば、いくらでも無限にとける。
3. どんなにたくさん入れても無限にとけ続ける。
4. 水が少しでもあれば、すべてのものが一瞬でとける。

問13　水の温度が同じとき、水の量を2倍に増やすと、そこに溶かすことができるものの量はどのように変化しますか。

1. 4倍になる
2. 2倍になる
3. 半分になる
4. 変わらない

問14　温度を上げてつくったミョウバンの水溶液を冷やすと、なぜミョウバンのつぶを取り出すことができるのですか。

1. 温度が下がると、水がすべて蒸発してなくなってしまうから
2. 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が減るから
3. 温度が下がると、ミョウバンが水の中でとけて見えなくなるから
4. 温度が下がると、水にとけることができるミョウバンの量が増えるから

問15　水溶液のようすについて、正しく説明しているものはどれですか。

1. 全体が白くにごって、向こう側が見えない。
2. 溶けた物質が底に沈んでたまっている。
3. しばらく置いておくと、下の方だけが濃くなる。
4. 全体が一様にすき通っている。

問16　理科の実験で、液体をかき混ぜたり、ろ過をするときに液を伝わらせて静かに注いだりするために使う道具は何ですか。

1. 薬さじ
2. 温度計
3. ガラス棒
4. スポイト

問17　メスシリンダーで液体の体積を正しく読み取るとき、目もりに対する正しい目の位置はどれですか。

1. 真横から見る位置
2. ななめ上から見おろす位置
3. 真上から見おろす位置
4. ななめ下から見上げる位置

問18　水の温度が高くなるほど、水に溶ける量が急激に大きくなる性質をもつ物質はどれですか。

1. 鉄やプラスチック
2. ホウ酸やミョウバン
3. 木や紙
4. 食塩や砂

問19　右利きの人が上皿てんびんの右側の皿に分銅をのせていくとき、正しいのせ方はどれですか。

1. 重い分銅から順にのせる。
2. 軽い分銅から順にのせる。
3. 重さを気にせず、手にとった順にのせる。
4. 中くらいの重さの分銅から順にのせる。